

耳石解析による平成 30 年（2018 年）生まれアユのふ化日組成

久米弘人

1. 目 的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ曳調査で採捕した平成 30 年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

2. 方 法

耳石解析に用いたヒウオは、平成 30 年 9 月 20 日から 12 月 6 日に、船木崎から当场にかけての 4 水域（図 1 の実線部分）で、ヒウオ曳調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域 8m と中央付近の 2 水域では水深 8m に加え、水深 16m でも実施した。採捕したヒウオのうち 1 地点 60 尾を上限に全 928 個体から耳石を摘出し、耳石解析装置 (ARP/W+RI：ラトックシステムエンジニアリング社製) を用いて日輪数(図 2)を計数することでふ化日を

求めた。60 尾以上採捕された地点はそのふ化日を全採捕尾数に補正し、ふ化日組成図を作成した。

3. 結 果

ヒウオ曳調査で採捕された平成 30 年生まれのアユのふ化日のピークは9月中旬から10月上旬となった（図 3）。



図 1 サンプルング水域図



図 2 アユ耳石顕微鏡写真

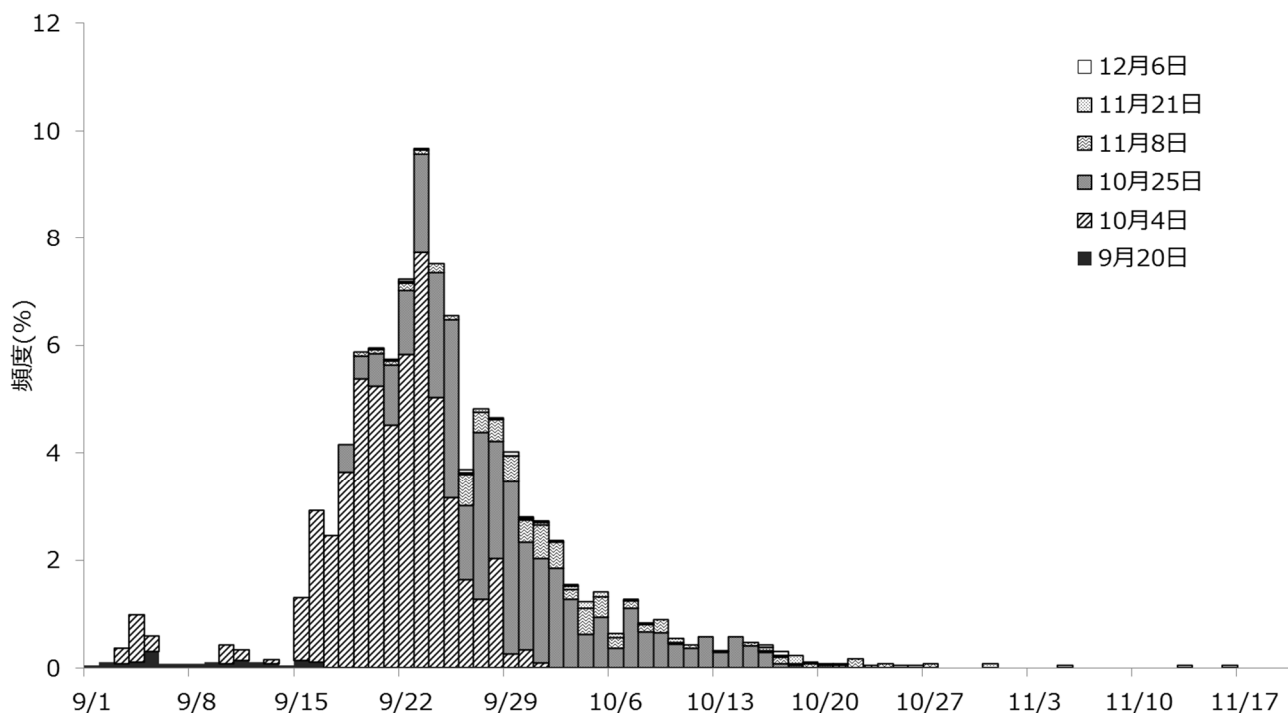


図 3 平成 30 年生まれアユのふ化日組成図